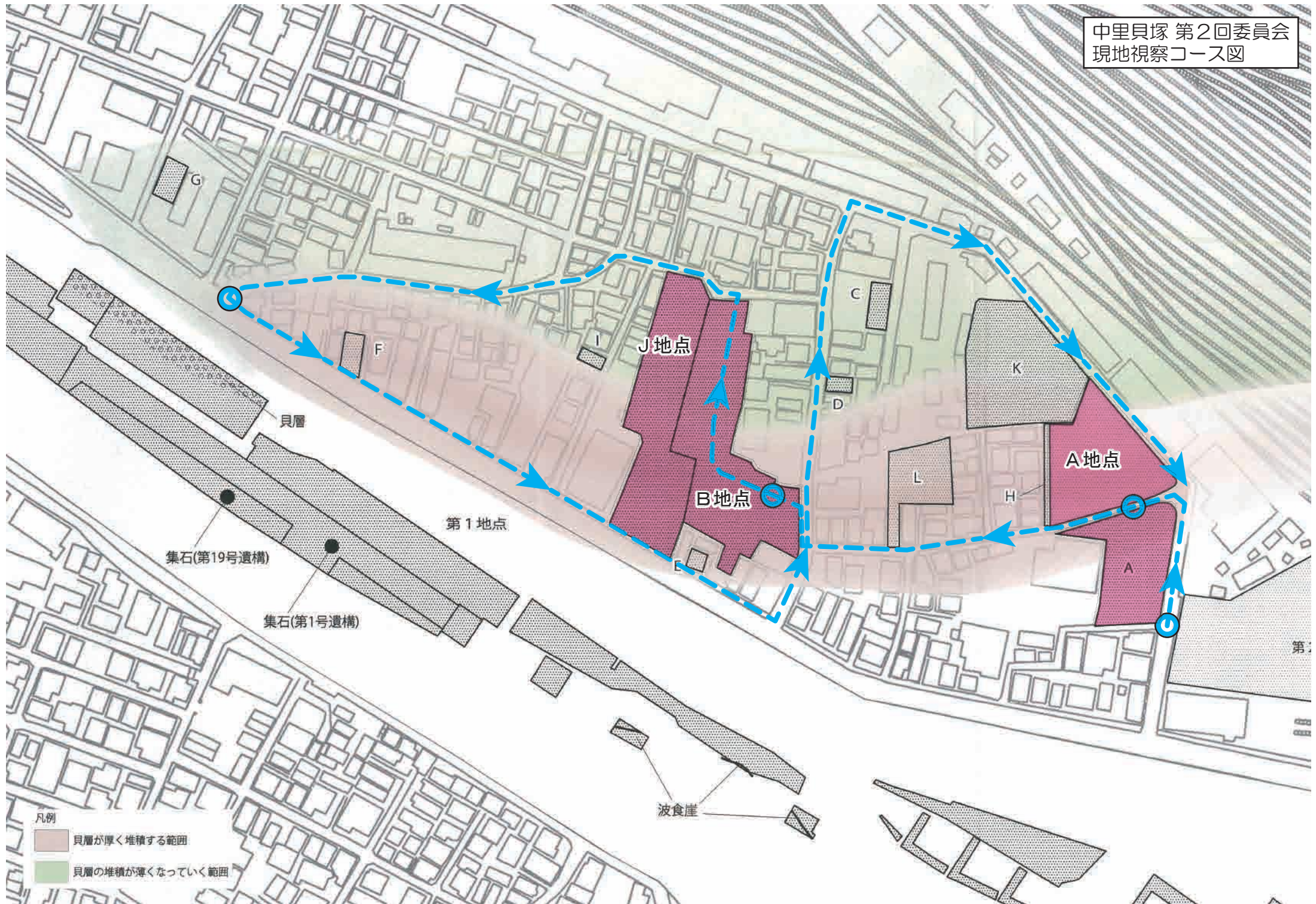


【配付資料一覧】

1. 現地視察コース図
2. 東京都北区中里貝塚保存活用計画策定委員会 第2回会議次第
3. 委員会席次
4. 議事関係
  - 資料1 史跡の現状と課題
  - 資料2 史跡の構成要素
  - 資料3 今後のスケジュール
  - 参考資料 史跡及び文化財関連の参考データ

中里貝塚 第2回委員会  
現地視察コース図





東京都北区中里貝塚保存活用計画策定委員会  
第2回会議次第

平成30年3月9日（金）  
北区飛鳥山博物館 講堂

1. 開 会

2. 議 題

(1) 史跡の現状と課題 <資料1>

(2) 史跡の構成要素 <資料2>

3. その他

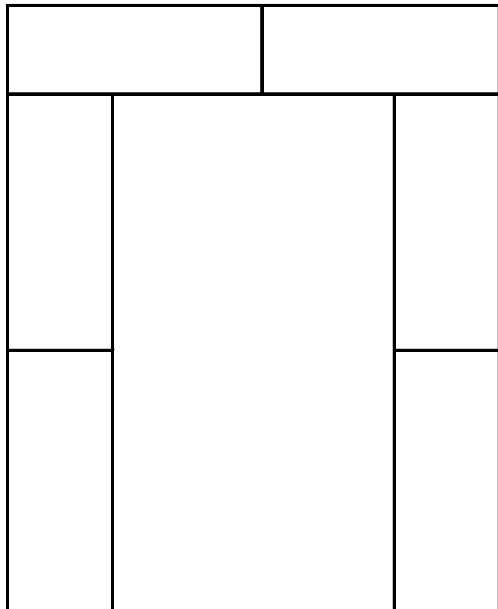
○今後のスケジュール <資料3>

○次回委員会 平成30年5月11日（金）午後2時～飛鳥山博物館講堂

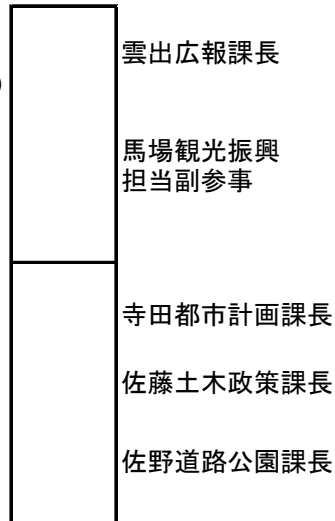
4. 閉 会

《委員会》

石川副委員長 阿部委員長



《区関係理事者》



出入口

《事務局》



傍聴席

コンサルタント

壁

## 議題（１）史跡の現状と課題

## ◇保存管理に関する現状と課題

## （１）現状

- 史跡指定地の公有地化は完了している
  - 上中里２丁目広場（Ａ地点）は、公園用地として国鉄清算事業団より購入している。
  - 史跡広場（Ｂ・Ｊ地点）は、指定後の先行取得買上げ（Ｂ地点）と、追加指定後の直接買上げ（Ｊ地点）。
  
- 指定地内の地下遺構は、適切に保護されている
  - 上中里２丁目広場（Ａ地点）は、史跡指定前に公園整備されたが、施工時には盛土をして遺構面を保全している。また、トイレ設置箇所は、もともと工場跡で攪乱されていた箇所を選定して施工している。
  - 史跡広場（Ｂ・Ｊ地点）も盛土施工して遺構面を保全している。
  
- 指定地周辺は「中里遺跡」として周知され、地下遺構の保全が図られている
  - 住宅建築等の開発行為を行う場合は、届出が義務付けられている。その際には、地下遺構について説明し、遺構を損壊しないよう協力を求めている。これまで貝塚の損壊に至ったケースはない。
  - 指定地周辺は住宅地であり、地下構造を有する建物はほとんどなく、地下遺構に影響する開発行為は、ほぼない。
  - 指定地周辺は軟弱地盤のため、建築の際に地盤改良が必要な場合が多い。地盤改良では、掘削が 1.0m 以上に及び表層改良や口径が 60cm の柱状改良など、平面積が大きくなるような工法は避け、口径が 15cm 未満の鋼管杭等を採用してもらい、損壊範囲を最小限（建築面積の 1.0%以下）に止めるよう協力をいただいている。
  
- 指定地内は暫定整備されている
  - Ａ地点は児童遊園として指定前に、Ｂ・Ｊ地点は史跡広場として指定後に暫定整備されている。
  
- 上中里２丁目広場と史跡広場は、地元団体等と協働で管理している
  - 上中里２丁目広場の管理主体は道路公園課。施設は「貝塚町会」に委託  
（開園時間：４～９月は９～１８時 / 10～３月は９～１７時）  
清掃等はシルバー人材センターに委託
  - 史跡広場の管理主体は教育委員会。施設や清掃等は「中里貝塚史跡広場管理委員会」に委託  
（開園時間：４～８月は９～１８時 / ９～３月は９時～１６時 30 分）
  
- 確認調査を含めた史跡の調査研究体制、専門職員の配置
  - 現在、埋蔵文化財業務に関わる担当職員（常勤） … 2 名（50 代・博物館業務も一部兼任）  
博物館業務に関わる担当職員（常勤） … 1 名（50 代・文化財全般も兼務）  
（非常勤） … 1 名（30 代）

## (2) 課題

- 中里貝塚は、JR尾久操車場構内から住宅地にかけて広範囲に分布しており、現在の史跡指定地はそのうちの部分的なものである。
- 密集する住宅街の中で史跡指定地は2カ所に分かれており、貝塚の全体像を復原することが難しい。
- 児童遊園の上中里2丁目広場（A地点）は、史跡としての景観の創出は実施できていない。

## ◇活用に関する現状と課題

### (1) 現状

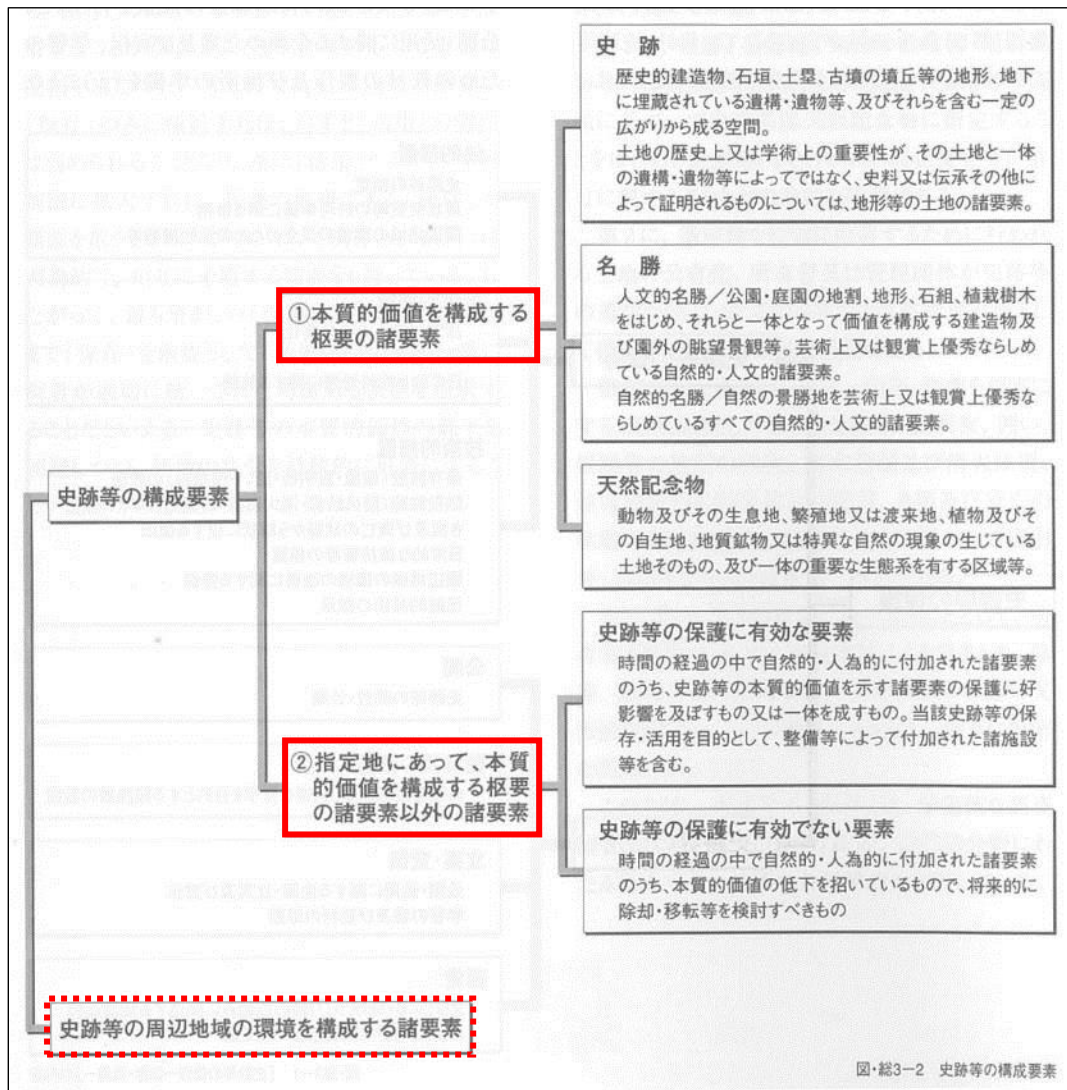
- 飛鳥山博物館で剥ぎ取り標本や出土遺物等を常設展示
- 史跡に関するパンフレット（2冊）やリーフレット（1冊）を作成
- 節目の年に、史跡の企画展やシンポジウムを開催  
→平成22年に史跡指定10周年記念の秋期企画展を実施  
会期中の11月21日に記念シンポジウム「中里貝塚と縄文社会」を開催
- 毎年、小学生等の博物館見学の団体受け入れを実施
- 指定地となっている箇所発掘調査の際には、現地説明会や地元説明会を実施
- 平成28～29年度にかけて、調査成果を網羅した『総括報告書』を作成
- 史跡広場は子供たちの遊び場や、高齢者の散歩コースとして定着
- 上中里2丁目広場には防災倉庫が設置されており、一時避難場所としても機能

### (2) 課題

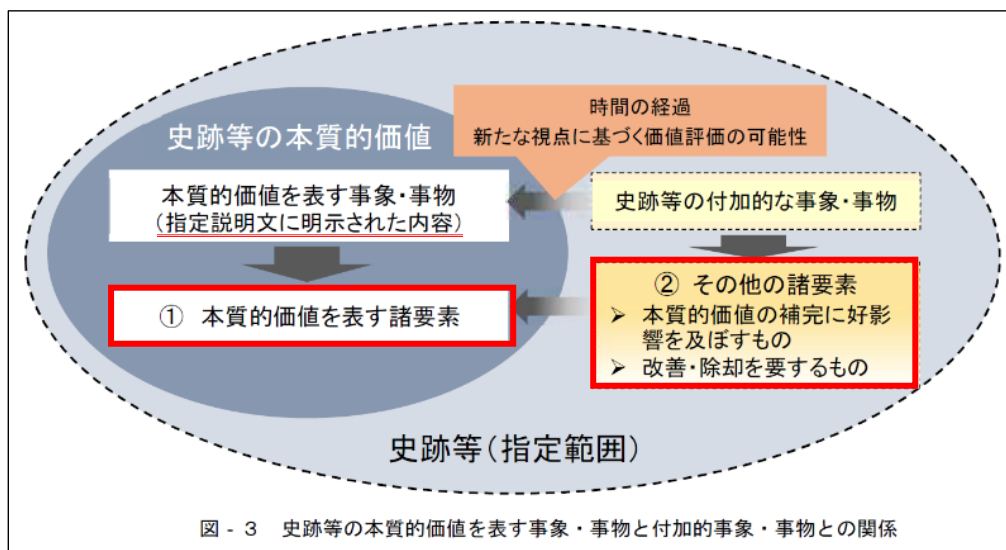
- 現地で史跡について学んだり、地域学習の場になっていない。
- 史跡ガイドツアーとして定着していない。
- 回遊ルートの要所（最寄り駅など）に、案内板や誘導標識がない。
- ベンチや日除けなどの便益施設が不足している。

議題（2）史跡の構成要素

◇平成 17 年（2005）文化庁発行『史跡等整備のてびき Ⅰ 総説編・資料編』 p.62



◇平成 27 年（2015）文化庁発行『史跡等・重要文化的景観マネジメント支援事業報告書』 p.27



①中里貝塚の本質的価値を構成する諸要素（史跡の指定説明文から抽出）

厚さ2m以上に及ぶハマグリとマガキからなる貝層

厚さ4mの大規模な貝層と貝の処理施設と考えられる2基の浅い皿状の土坑

貝層中には焼き火跡と判断される木炭層や灰層

厚さ2m以上の貝層下の波食台に敷かれた長さ6.2m以上の木道

→最大で長さ700m、幅100mに広がる貝層（全国で最大規模）

→指定地内に包含されている遺構、遺物

昭和33年に和島誠一による調査

平成8年、平成11年の発掘調査

出土土器から貝層の形成は縄文時代中期中葉から後期初頭

→発掘で出土した遺物

→調査記録や分析データ（報告書など）

明治19年には白井光太郎によって「中里村介塚」として学界に初めて報告

明治29年には鳥居龍蔵らが、貝塚を見渡したスケッチ

→中里貝塚の研究史

武蔵野台地下、旧東京湾奥部の西側の浜辺に営まれた縄文時代の貝塚

集中的に貝を加工した結果、膨大な量の貝が堆積したことも想定

集落からはなれた浜辺で付近の集落に暮らした人々が協業して貝加工

縄文時代に自給自足的な範囲を越えて内陸の他の集落へ供給することを目的とした貝の加工処理

→古環境や当時の地形、縄文時代の生活様式、社会の仕組みなどの復原



## ②その他の諸要素（←現在の史跡指定地内）

### ②-1：史跡の保護に有効な要素

- 史跡を周知するための要素（標柱、境界標）
- 史跡の情報提供のための要素（案内板、解説板）
- 史跡の活用に必要な要素（来訪者のための便益施設、散水栓などの設備、植栽）

### ②-2：史跡の保護のために調整が必要な要素

- 史跡景観に違和感を与える要素（児童遊園として整備された広場）

## ③史跡の周辺地域の環境を構成する諸要素

### 本質的価値に密接に関わる要素

- 中里遺跡（丸木舟、集石遺構など）  
→縄文時代の浜辺での活動
- 高台の集落（御殿前遺跡、七社神社前遺跡、七社神社裏遺跡、西ヶ原貝塚など）  
→中里貝塚の形成に携わった人々の集落
- 当時の活動の場を想起させる地形（田端微高地、飛鳥山微高地）  
→中里貝塚周辺古環境（干潟の形成など）

## 今後のスケジュール

### ◇平成 29 年度

平成 30 年 1 月 19 日

第 1 回委員会：委員紹介、計画策定の目的と経過

平成 30 年 3 月 9 日

第 2 回委員会：現地視察、史跡の現状と課題、史跡の価値と構成要素

### ◇平成 30 年度

平成 30 年 5 月 11 日

第 3 回委員会：史跡の価値と構成要素、地区区分、基本方針、保存管理の検討

平成 30 年 7 月頃

第 4 回委員会：整備活用、運営体制、実施計画・年次計画の検討

平成 30 年 9 月頃

第 5 回委員会：計画書の全体構成、素案の内容確認

平成 30 年 11 月頃：『国史跡中里貝塚 保存活用計画』素案とりまとめ

平成 30 年 12 月～平成 31 年 1 月：パブリックコメント、地元説明会

平成 31 年 1 月頃

第 6 回委員会：パブリックコメント等の結果報告、計画書原稿の最終確認

平成 31 年 3 月：『国史跡中里貝塚 保存活用計画』策定

## 参考資料・参考データなど

### ◇史跡指定の状況

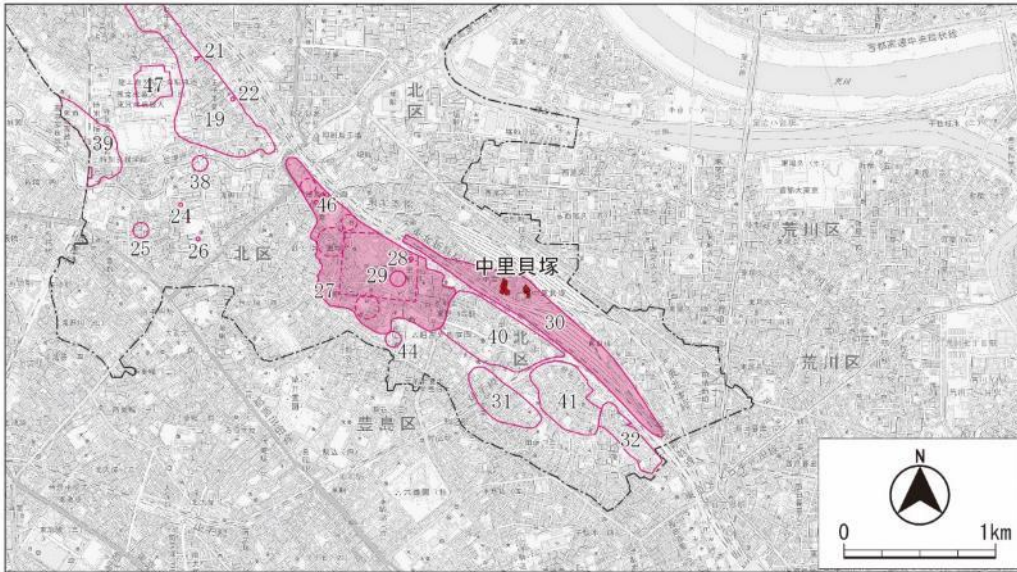
- ・ 指定面積：6,248.49 m<sup>2</sup>
- ・ 土地所有：指定地内は全て公有地であり、地下遺構の保全が図られている
- ・ 指定地外の関連遺構の保存：史跡周辺は「中里遺跡」として周知されている
- ・ 指定説明文（文化庁ホームページの“国指定文化財等データベース”より引用）

中里貝塚は、武蔵野台地下、旧東京湾奥部の西側の浜辺に営まれた縄文時代の貝塚である。付近の武蔵野台地上には同じ縄文時代中期の西ヶ原貝塚や御殿前遺跡がある。

中里における貝塚の存在は早くから知られ、大森貝塚の発掘から9年後の明治19年には白井光太郎によって「中里村介塚」として学界に初めて報告された。その後、明治29年には鳥居龍蔵らが、貝塚を見渡したスケッチを残している。このように明治年間から学界に報告され注目された貝塚であったが、その後、鉄道敷設や宅地化で次第にその存在も忘れられていった。

昭和33年に和島誠一による調査が行われ、厚さ2m以上に及びハマグリとマガキからなる貝層が確かめられた。昭和58～59年に周辺で行われた調査でも、当時の浜辺からムクノキ製の丸木船1艘と集石炉2基が出土した。公園建設にともなって北区教育委員会が行った平成8年の発掘調査では、厚さ4mの大規模な貝層と貝の処理施設と考えられる2基の浅い皿状の土坑が検出された。この土坑は1.6×1.3mと0.6×0.5mの大きさで、いずれも内壁に粘土を貼り、枠取りをするように枝を縁に巡らしている。土坑内からは大小の焼石やマガキのブロックが出土したことから、土坑中に貝を置いて水を張り、焼石を投入して水を沸騰させ、貝の口を開けた処理施設であったと推測された。こうした施設を用いて集中的に貝を加工した結果、膨大な量の貝が堆積したことも想定された。また、出土土器から貝層の形成は縄文時代中期中葉から後期初頭であること、貝層中には焼き火跡と判断される木炭層や灰層があることも確認された。さらに、平成11年にも、マンション建設に先立って、北区教育委員会が平成8年の調査地点の西120mの地点を発掘調査し、厚さ2m以上の貝層下の波食台に敷かれた長さ6.2m以上の木道と、それに続く長径3.2m、短径1.7m、深さ0.5mの土坑を確認した。なお、平成8年、11年の両調査地点とも保存が図られている。

このように中里貝塚は、集落からはなれた浜辺で付近の集落に暮らした人々が協業して貝加工を行った結果残された、南北100m以上、東西500m以上の範囲に最大で厚さ4.5m以上の貝層が広がる、巨大な貝塚である。そして、縄文時代に自給自足的な範囲を越えて内陸の他の集落へ供給することを目的とした貝の加工処理があったことを各種の遺構で具体的に伝える重要な遺跡でもある。よって史跡に指定し保護を図るものである。



包蔵地・遺跡名称

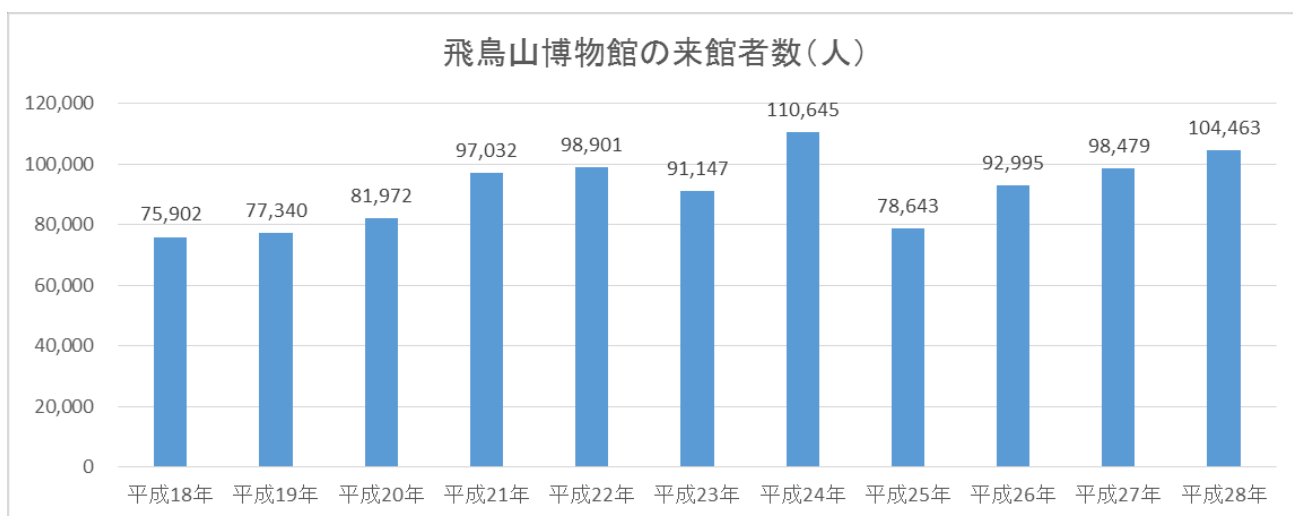
- |               |           |                |            |
|---------------|-----------|----------------|------------|
| 19 十条台遺跡群     | 27 西ヶ原遺跡群 | 28 甲冑塚古墳       | 39 下十条遺跡   |
| 21 十条台小学校横穴墓  | - 西ヶ原貝塚   | 29 武蔵国豊島郡衙跡    | 40 中里峽上遺跡  |
| 22 王子稲荷裏古墳    | - 御殿前遺跡   | <b>30 中里遺跡</b> | 41 田端西台通遺跡 |
| 24 四本木稲荷古墳    | - 七社神社前遺跡 | 31 田端町遺跡       | 44 東谷戸遺跡   |
| 25 滝野川八幡神社裏貝塚 | - 七社神社裏遺跡 | 32 田端不動坂遺跡     | 46 飛鳥山古墳群  |
| 26 滝野川古墳      | - 飛鳥山遺跡   | 38 滝野川城跡       | 47 十条久保遺跡  |

◇史跡内の工作物・施設等

上中里2丁目広場	解説板・フェンス・擁壁・門扉・ベンチなど 防災倉庫・トイレ・水飲み場・植栽など	平成 10 年度：A 地点
中里貝塚史跡広場	解説板・フェンス・擁壁・門扉・側溝・集水桝・ 園路・散水栓・境界標・植栽・花壇など	平成 12・16・20 年度：B 地点 平成 25 年度：J 地点



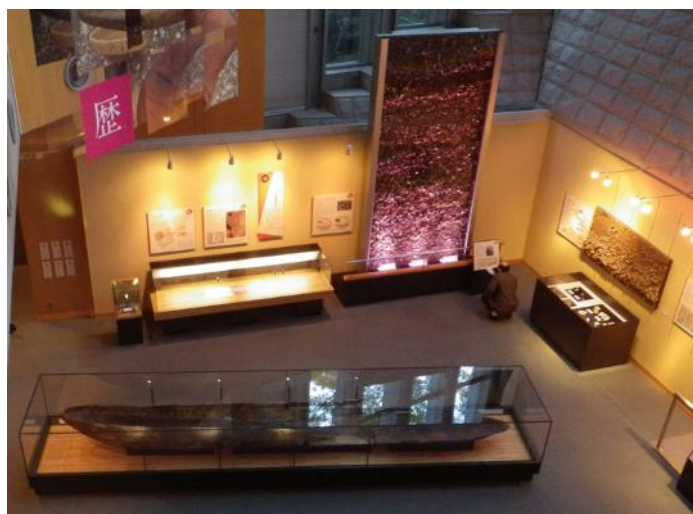
◇飛鳥山博物館の来館者数の推移



◇博物館見学を実施している学校や団体など（平成28年度実績）

一般見学	46団体	1,406名
保育園・幼稚園	0	0
小学校	14校（区立3校）	779名
中学校	7校（区立：1校）	175名
その他	2校	22名
高校	1校	38名
大学	3校	189名
合計	73団体	2,609名

※一般見学の団体中には、各地の歴史系研究会が複数含まれる。



↑ 剥ぎ取り標本・丸木舟

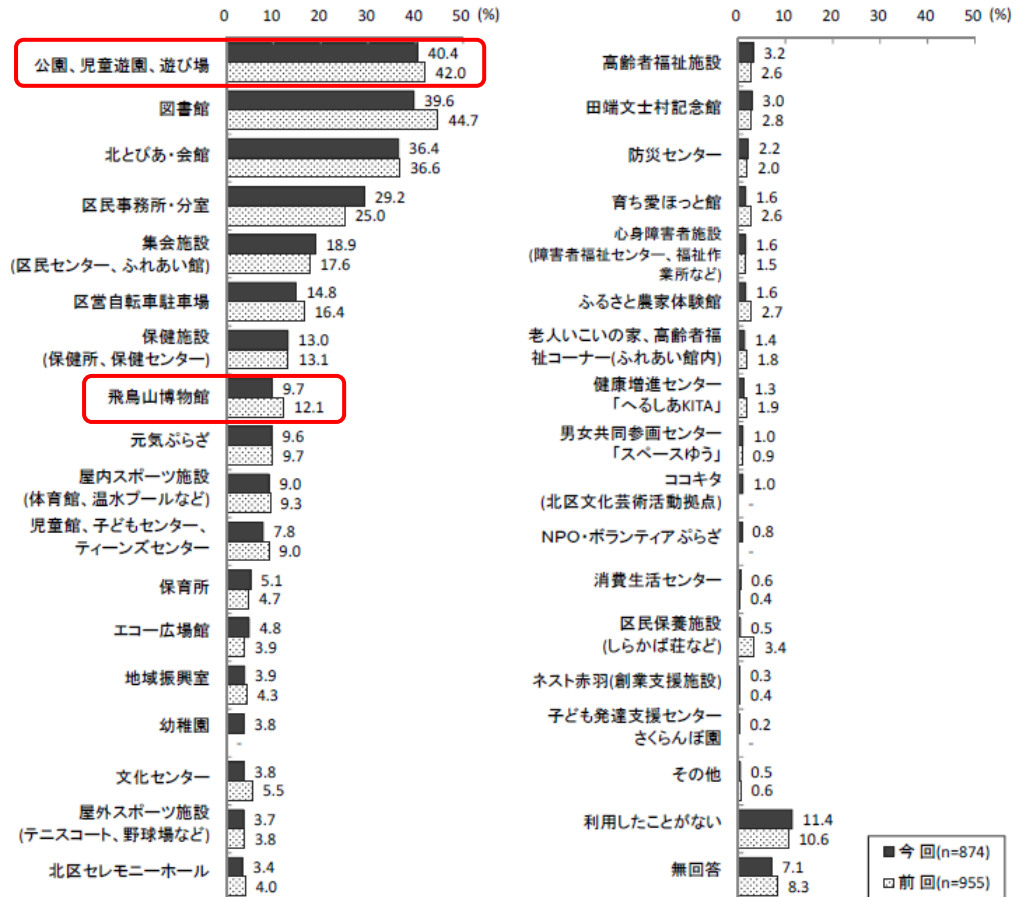


↑ 剥ぎ取り標本



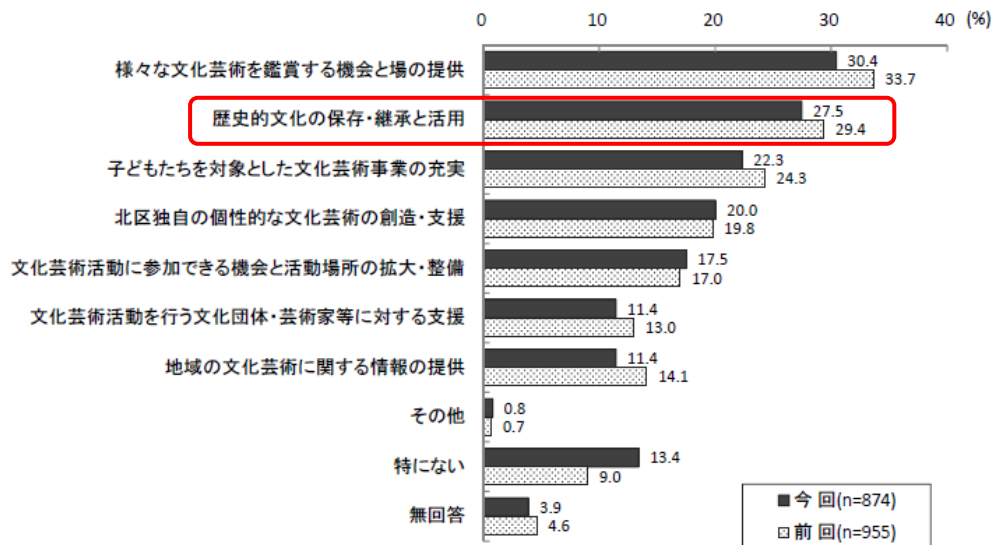
問6 次にあげる区の施設のうち、あなたがこの1年間で利用したことがあるものをすべて選んで○をつけてください。

図表 2-1-1 生活圏・行動圏



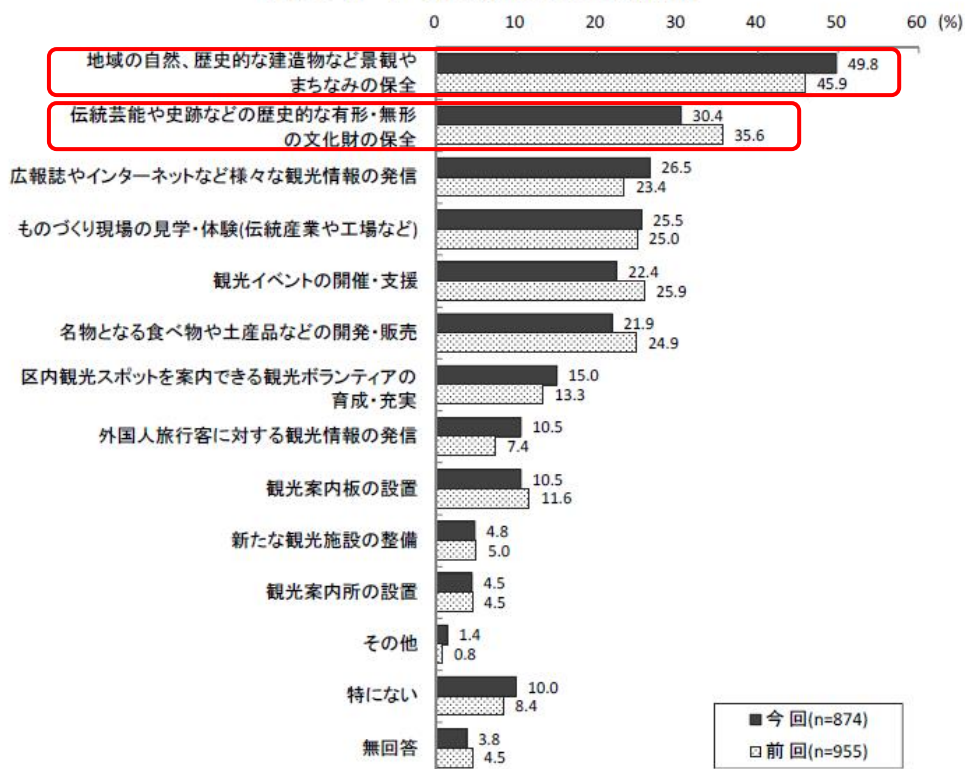
問 28 今後、地域の文化振興のため、区が力をいれるべきだと思うことは何ですか。  
次の中から2つまで選んで○をつけてください。

図表 7-6-1 地域文化振興のための重点施策



問 30 北区の観光振興に関する取組みのなかで、あなたが重視すべきだと思う取組みは何ですか。  
次の中から3つまで選んで○をつけてください。

図表 7-8-1 観光振興のための重点施策









# あるく・みる・きく 『北区の文化財ロードをあるく』

北区の日光御成道(岩槻街道)沿いには、見どころがたくさん。なかでも、王子神社から旧古河庭園にかけては、区・都・国の文化財が密集しています。文化財の種類も、天然記念物の大イチョウから、民俗芸能、建造物、考古遺跡などさまざまです。これだけ文化財の密度の濃い場所は、区内はもちろん、都内でも珍しく、じっくり見ようと思うと、2日くらいかかってしまうのではないかとというエリアなのです。

毎年秋に開催している野外講座「北区文化財めぐり」では、学芸員が解説しながら回っていますが、今回は、野外講座では時間がなくてカットしているところも合わせてご案内します。

各文化財所在地には、文化財説明板(★マークの地点)が立っています。コース中間地点の飛鳥山には、当館を含めた3つの博物館もあります。ゴールの旧古河庭園まで、北区の文化財ロードをじっくりお楽しみください。



8月に奉納される王子田楽  
戦災を焼け残った大イチョウ  
王子神社



飛鳥山の花見を仕掛けた  
将軍吉宗をたたえる  
飛鳥山碑



飛鳥山3つの博物館  
開館情報は、本紙6ページを  
ご覧ください。



赤レンガの酒造工場  
旧醸造試験所第一工場



地元熱意で保存された  
西ヶ原一里塚



西ヶ原貝塚  
※はぎ取り標本が  
見られます



コンドルの洋館と  
植治の日本庭園  
旧古河庭園

開 園 : 9:00~17:00  
(入園16:30まで)  
入 場 料 : 一 般 150円  
65歳以上 70円



★=文化財説明板  
各文化財所在地には、文化財説明板が立っています。

『北区のたからばこ』  
街歩きのお供に、ガイドブックはいかがですか？  
区内の文化財を写真付きで紹介しています。北区飛鳥山博物館と北区役所区政資料室にて販売中。(500円)



◇史跡での体験型イベント等の事例①  
 【加曾利貝塚】（所在地：千葉県千葉市）

区分	活用内容	概要
主催 イベント	縄文まつり	博物館が開館した11月頃に各種縄文体験イベントを実施。
	縄文ひろば	ボランティアが中心となり、火起こしやアンギン編み等の縄文体験を実施。
	ナイトミュージアム	博物館の夜間開館と竪穴住居での夜を体験。
	土器ドキ発掘体験	発掘調査や遺物の整理作業を疑似体験する。
講座	考古学講座	考古学に関連するテーマに沿って、最新の研究成果を紹介する講座。
	郷土史講座	考古学に限らず、千葉市にまつわる歴史関連の講座。
	土器づくり	縄文土器の製作技術を体験・学習することを目的として開催。
学校教育	歴史学習のための 社会科見学	社会科で歴史学習をはじめの小学6年生を対象とした史跡見学と各種縄文体験。
	総合的な学習の時間 への対応	市内外の学校への出前授業の実施。
人材育成	職場体験の受入	中学生に博物館での業務を体験してもらう。
	派遣研修の受入	小学校の社会科教諭を受け入れ、博物館での教育普及活動を体験してもらう。
	博物館実習の受入	博物館学芸員課程を履修している大学生のための実践に即した実習。
	博物館ボランティア 育成講座	展示解説・体験学習等で活動できる博物館ボランティアの育成。
出張派遣	出張展示	生涯学習センター、公民館、図書館等で遺物やパネルの展示。
	イベントでの広報 活動	千葉モノレール祭り、駅からハイキング、まなびフェスタ（生涯学習関連イベント）、区民まつり、公民館まつり他。
	かそりーぬ	PR大使かそりーぬによる加曾利貝塚PR活動。イベントや啓発活動への協力。
	講師の派遣	諸機関・諸団体の求めに応じ講師を派遣。



アンギン編み



土器ドキ発掘体験



土器づくり



縄文 春まつり



縄文 秋まつり



**夜の縄文暮らし体験**  
 夜のたて穴住居の中で、たき火の明かりに頼る縄文人の生活を体験。  
 場所 復原集落  
 時間 17:30～20:00  
 ※小雨決行・荒天中止

（↑平成29年1月『史跡 加曾利貝塚 保存活用計画書』p.65・66より引用）

（↑写真：千葉市HP・千葉市観光ガイドHPより引用）



◇史跡での体験型イベント等の事例②

【黒浜貝塚】（所在地：埼玉県蓮田市）

- ・縄文時代前期中葉の関東地方を中心に見られる土器型式「黒浜式土器」の標式遺跡
- ・「宿浦のムラ」では住居跡 41 軒が検出され、このうち5軒の住居跡内で貝塚を確認
- ・平成 21 年（2009）から毎年、11 月3日に「雅楽谷（うたや）の森フェスティバル」を開催
- ・「火おこし体験」「発掘体験」「勾玉作り」「黒浜貝塚探検ツアー」などの体験メニューあり
- ・平成 30 年（2018）は、10 周年記念の特別企画を実施予定



（↑『国指定史跡 黒浜貝塚 パンフレット』より引用、一部改変）

（↑写真：蓮田市 HP・雅楽谷の森フェスティバル実行委員会 HP より引用）





## AR・VRを活用して、 現地で貝層を体感してもらうための提案資料

### 貝塚形成当時の景観を表示



現地の位置を取得し、カメラが向いている方向と連動して貝塚形成当時の景観 CG を 360 度の VR で表現する

- ・当時の貝塚周辺の様子が明確に解り、現在との違いを実感してもらう
- ・当時の景観が表示できる範囲に来たら、アプリでお知らせする

表示イメージ案①  
2画面で見ること  
で現在と当時の差  
が比較しやすい

表示イメージ案②  
当時の地形につい  
ての解説が出ると  
理解が深まる



## 発掘調査時の様子を表示

発掘調査現場を訪れた時、その場で発掘されたものや当時の写真、解説等を AR で表現する

- ・発掘調査時の写真等が当時の位置に表示されることで、埋め戻された貝塚の内容が視覚的にわかる

ポイントまでの道のりを案内し、発掘調査現場まで来ると『ARモード』が起動する

※イメージ



複数人同時体験による感動の共有も可能



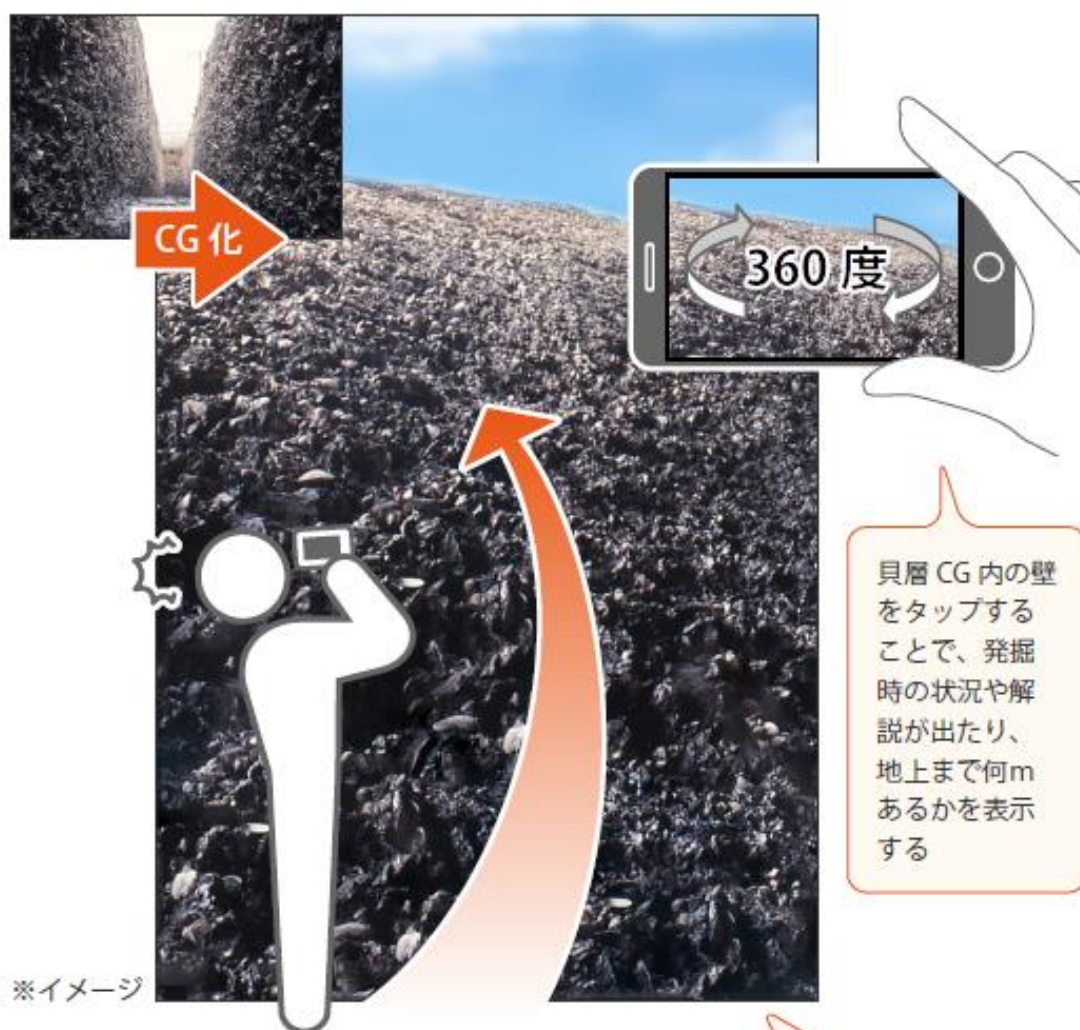
- ・上記の上位版として、ヘッドマウントディスプレイを使用し、CG再現された発掘現場を覗き込んだり、発掘品を360度眺めることができる『VR版』を博物館等で常設展示
- ・イベント等への持ち出しも可能な小型PCで運用する



## 発掘調査時の貝層トレンチの断面表示

発掘調査時の堆積層をCGで再現し、360度のVRで表現することで国内最大級の貝塚を体験してもらう

- ・4.5mも貝殻が堆積する時間、縄文人が生活していたという事実を埋め戻された現場で「見上げながら」感じてもらう



1箇所ではなく複数カ所で見上げる体験ができると、堆積層の厚みの違いや貝の種類、貝層の分布範囲まで感じてもらいやすい

## 中里貝塚の規模や 縄文時代について知ってもらう

中里貝塚周辺の数カ所にクイズポイントを置き、その地点に  
ゆかりのあるクイズを解きながら、中里貝塚や縄文人について学ぶ

- ・ポイントを巡ってクイズに正解すると仮想アイテム  
（マガキやハマグリ）がGETでき、獲得数に応じて最後に調理  
（結果発表）する等のゲーム要素を入れる
- ・実際に歩くことで、日本最大の貝塚の規模が実感できる



中里貝塚に関連がある場所をクイズポイントに設定し、  
近づくと『クイズモード』が遊べるようになる



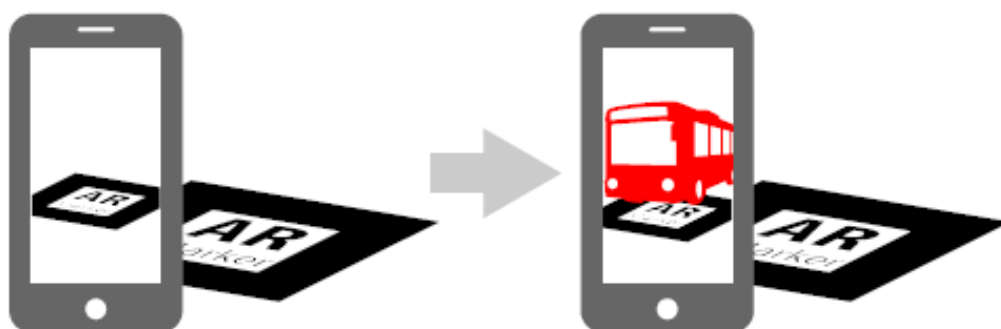
※『クイズモード』イメージ





# AR 拡張現実 Augmented Reality

実際の世界に別の情報を重ねて表現する技術



例：マーカーを読んでカメラ映像内 CG を出現させる

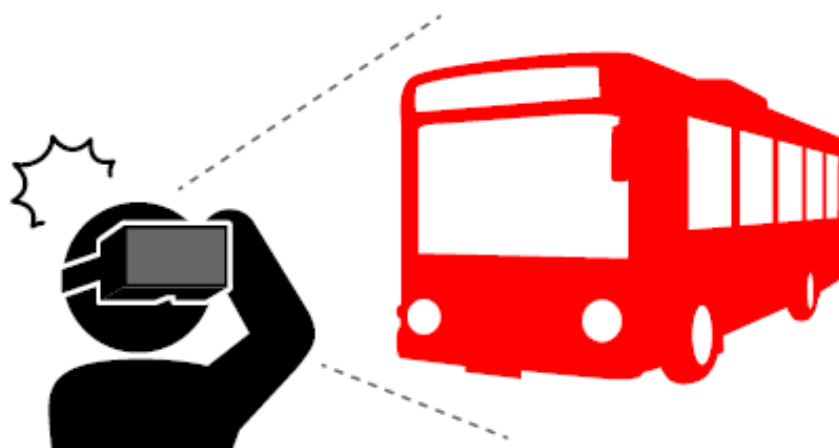
**AR = 現実 + CG**

## point!

- ・ マーカーあるいは GPS 座標を取得しないと CG が出現しないため、その場所まで足を運んでもらうことができる (端末精度により CG 出現位置にズレが生じる場合がある)
- ・ CG と一緒に写り込む事で記念撮影ができる

# VR 仮想現実 Virtual Reality

実際には無いものを実在するように表現する技術



例：CG がその場にあるかのように見せる

## VR = 全てが CG

### point!

- ・見える光景が全てCGで構成されているため、別世界に来たような体験が可能
- ・いつでもどこでも何人でも、同じ体験ができる